金圓の御下賜あり、息可久亦夙に職を神奈川縣に奉し、在職中横濱市助役に選れ、四十年退任す

西村勝三

○西村勝三(故)　天保七年江戸に生れ、嘉永三年佐倉藩に仕へ、後砲術助教を命せられ、安政三年日光奉行三好阿波守の同心銃隊を教練するの任に當りしが、四年の頃より耐火煉瓦類似品の製造を試み、爾來身を實業界に投し、横濱開港に際し貿易の實況を視察せんとて來住し、文久二年朱の密賣を爲せる咎に依り、江戸小傳馬町揚屋に投せられ、慶應元年特赦せらる、翌二年再び横濱に來り太田町に住す、當時伊勢勝と稱せしもの是れなり、明治三年軍用靴製造所を東京に設け、五年莫大小製造所を設けたるは、何れも我國に於ける嚆矢にして、後東京商業講習所(東京高等商業學校の前身)の創設に力を盡し、耐火煉瓦工場を起し、櫻組を組織し、東京商業會議所副會頭と成り、府會議員と成り、工業視察の爲歐洲に渡航し、三十三年には綬褒章を授與せられ、四十一年一月歿す

平沼專藏

○平沼專藏　天保七年武藏國飯能町に生る、横濱に來住せしは、安政六年にして、最初明石屋平藏(今の渡邊福三郎店)の店に入りたるが、當初決心する所あり、蓄財に努めたる結果、慶應元年には、現今の住所なる横濱本町二丁目の土地を買取し、羅紗、唐棧等の引取並に生絲の賣込業を開始するに至れり、彼が赤手にして富豪となりし原因の一二を擧れば、曾て米國より輸入せる綿絲を買占めたるに、程なく南北戰爭起りて、同國よりの入荷絶え、内地棉花の凶歉と相待て、相場騰昂し、忽ちにして數十萬圓の利益を收むることを得たり、又明治元年は前年米穀の凶作に依りて、南京米を輸入するもの多く、横濱市場在荷山を爲し、外國商館は投げ賣の擧に出むとするに際し、安價を以て五百萬斤を買收し、當時小賣相場一圓に付七升替なりしを、同一斗三升替にて盛んに賣出したれば、近在數里に渉りたる貧民は、潮の如く集ひ來り數日にして賣盡し、爲に俠名を售り、同時に巨利に潤ひたりといふ、爾來商略著著圖に當り、蓄積漸く嵩むに至り、私立銀行を設立したるは今の横濱銀行なり、又彼れが老後の餘榮として、設けたるは平沼小學校(本編教育の部に詳かなり)なり、又公生涯としては、明治十年二月、步合金取締役に選任せられたるを始とし、第一大區議員、神奈川縣會議員、横濱市會議員、同市參事會員、同水道局長、貴族院議員等に擧られ、横濱米穀株式取引所、電線製造、東京瓦斯紡績、横濱共同電燈、其他數多の會社に重役たる

の外に、諸多の銀行業に關係し、又曾て海防費を献納して從五位に叙せられ、三十七八年戰役の功勞に依り、勳五等に叙せらる

伏島近藏

○伏島近藏(故)　天保八年上野國に生れ、慶應元年横濱市に移住して、羅紗、蠶卵紙、製茶、漆器、海産物等の貿易に從事し、明治十一年第七十四國立銀行を起して之れが頭取たり、十三年蠶卵紙十一萬枚を携へて、伊太利に渡航せしに、同地商人は蠶兒の將に發生せんとするの期迫るを待ち、不當の安價を以て買取らんとせしも、彼自から主張せる直段を維持して一歩も讓らず、遂に八十餘萬枚に蠶兒を發生せしめ爲に債を負ふ事五十一萬圓に及びしも數年の後完濟せりと云ふ、二十七年八萬圓を費して新吉田川を鑿ち三十一年には、新富士川を開鑿し(本編運輸の部にあり)其間架橋十一内六は獨力之れを築造したるなり、其他上州なる鄕里の爲に盡す事多かりければ、九年聖駕東巡の際賞賜あり、後三十二年横濱市參事會員に擧られ、横濱市瓦斯局長に推され、三十四年伯爵板垣退助等と共に出願せる北海道宗谷郡官林開墾の許可を得、栗原亮一西山志澄等を伴ひ該地へ出發し同地の客舍に歿す

大谷幸兵衛

○大谷幸兵衛　天保八年伊勢國に生れ、横濱市に來り、製茶及海産乾物賣込業を營み後、大谷嘉兵衛商店に營業を移して合併す、其間横濱商業會議所議員、武藏商業銀行並に同貯蓄銀行の專務取締役及び共慶生命保險株式會社專務取締役に就任し其他商事諸會社の重役を兼ぬ

朝田又七

○朝田又七　天保九年三河國に生れ、文久元年横濱に來住し、同漕業を營み今日に至る、其間數十年横濱市に於ける公共の事業にして、彼れの關係せる主なるものを擧げんに、明治十一年、神奈川縣第一大區區會議員に當選せしを始めとし、十二年以後神奈川縣會議員、同常置委員、同市部會議長、同縣參事會員、横濱市會議長、同市參事會員、同水道局長、同商業會議所常務委員、貴族院議員等に擧げられ、明治二十年海防費獻納の賞として勅定黄綬褒章を又三十七八年事件の功に依り、勳四等旭日小綬章を授與せらる、其他實業方面に於ける現職は、横濱船渠、横濱鐵道、明治火災、同生命保險、第二銀行、横濱實業銀行、横濱實業貯蓄銀行、日本製氷、日本ペイント製造、日本安全油、東明火災、海上保險の會社等を始めとし、諸多の會社銀行に重役の地位を占め諸團體より推されて其長たるもの多し

平沼九兵衛

○平沼九兵衛(故)　五代目九兵衛天保十年、面積十餘萬坪の海面を埋め立てて新田

を開けり、今の平沼町の一部及西平沼是れなり、其兒六代九兵衛は弘化元年保土ヶ谷に生れ、文久三年平沼新田に移轉し、新田開發に從事し、傍ら製鹽事業を營み、同地方名主に推さる、明治十七年新に新田を開き、後之れを宅地と爲せり、卽ち平沼町三四丁目なり、戸塚、程ヶ谷間の國道の如きも、亦彼の獻策經營に成れるものなり、縣郡市會の議員等に擧られ、四十年三月歿す、嗣子亮三は慶應義塾に業を卒へ、九兵衛死後市會議員に擧らる

加藤八郎右衛門

○加藤八郎右衛門(故)　明治二十一年、町村制實施以來、神奈川町會議員に選ばれ、二十九年神奈川銀行を發起し、爾來其取締役頭取たり、三十四年横濱商業會議所議員に選ばれ、三十八年に歿す

宮川香山

○宮川香山　其祖先は近江國淺井家の末裔にして、祐閑齋と號し、現代香山の父宮川長造に至るまで十代、世世陶器製造を以て業とせり、長造は時の名工木米の門に入りて技を研ぎ、特に宮中より京都眞葛原に本窯を築くを許され、安井宮より眞葛燒の稱を賜はり、華頂宮より香山の號を拜領し、安政六年長造歿して後、現代香山其業を繼ぎたり、時に年僅に十二、爾來和漢陶磁器製法を研究し、畫は大雅堂を師とせり而して彼は陶磁器の輸出業を開かんとの志望を懷き、横濱港に來りて製造所を設けしは明治二年にして、九年米國費府萬國大博覽會に其製品を出品し、賞讃を博したるを第一とし、內外國の博覽會又は共進會に出品して賞を受けたる事五十有餘回、長子を歐、米に派して陶業を視察研究せしむる事數回、十四年綠綬章を受け、三十年帝室技藝員を命ぜらる

安西德兵衛

○安西德兵衛　天保十年岩代國に生れ、明治三年舊小野組に入り、東京築地新榮町の製絲場に於て、製絲の業に從ふ、六年小野組及鄕友有志と共に、二本松製絲工場を創設せり、八年小野組解散し、彼が横濱に獨立開店したるは、十八年七月に在り、又羽二重組合の役員に列し、內國勸業博覽會には、屢、審査官を命ぜられ、横濱市會議員、同商業會議所議員等に擧らる

箕輪三郎

○箕輪三郎(故)　天保十一年江戸に生る、明治六年神奈川縣廳より學區取締を命ぜられ、爾來數年間戸長の職を勤め、十一年久良岐郡長に任ぜられ、十六年横濱區長と成り、十九年久良岐郡長の職に復し、二十九年勳六等を授けられ、三十三年依願免官と成り、正六位に叙せらる、四十一年五月歿す

箕田長二郎

○箕田長二郎(故)　天保十一年江戸に生る、安政六年横濱に來住し古銅、漆器の商店を開きたり、時に世上漸く穩かならず、美術工藝品の如き、棄て顧みるものなきに至りたれば、畫工、冶工、彫刻師の如き糊口に究するの徒を誘て銅器、漆器の佳品を製造せしめ、海外に輸出したり、明治五年澳國大博覽會御用達を命ぜられ、次で米、佛、獨の大博覽會に出品委託を受け、若くは出品して金、銀、銅諸種の賞牌を受け縣市會議員に選ばれ、七十四銀行副頭取に推され、又海防費献納の爲め從六位に叙せらる

高木三郎

○高木三郎(故)　天保十二年山形に生れ、慶應三年米國に留學し、明治四年在米國華盛頓日本公使館書記生に採用せられ、六年臨時代理公使と爲り、七年より十三年に至るまで、領事として同國に在勤し、十三年退職し、同伸會社を設立して取締副頭取に推され、後社長に推され、二十九年には生絲檢査所商議員を命ぜられ、三十六年横濱商業會議所特別議員に擧らる、又製絲業に關し三日月ハカリと稱する秤量器の如き揚卷器械、節コギ器械の如き、又其運送に用ふる荷箱の如き、孰れも彼の案に依て改良せられたるものなり四十二年三月歿す

堤磯右衛門

○堤磯右衛門(故)　天保十四年、神奈川縣久良岐郡に生る、明治六年洗濯用石鹼を製造し、一箇金拾錢にて販賣せり、是實に我國石鹼製造の嚆矢なり、七年初めて化粧用石鹼の製造を試み、且附屬事業として香水及髮洗粉をも製造せり、爾來事業進歩し二十六年まで引續き製造に從事し、其間屢博覽會へ出品し、十年京都博覽會に於て有功賞銅牌を得たるを初とし、賞を受くる事凡十回又二十三年中時事新報社に於て、最良なる石鹼の投票を公衆に求め、其結果大多數にて當選し同社より金牌の贈與を受け、事業益盛大ならんとするに際し、二十四年一月歿す

大谷嘉兵衛

○大谷嘉兵衛　弘化元年伊勢國に生る、文久二年横濱に出て輸出業に從事せしが爾來製茶貿易の隆盛に赴くと同時に、租製濫造の弊起り、海外需用者の信用を失墜せんとするや、屢、產茶地を歷訪して、製茶の改良を促がし、茶業組合を組織し、直輸の途を開き、三十一年米、西戰爭の結果、米國が製茶に苛重なる輸入稅を課するや、彼は米國に航し、時の大統領マッキンレーを始め、朝野の有力者を說て廢稅を促がし、翌年歸朝せり、此行に際し東京、横濱兩商業會議所の代表者として、費府萬國商業者大會に參列し日、米直通大平洋海底電線速成の事を提議して、其の目的を達したり、彼は貿易事業の餘力を國民敎育及奬兵事業に傾注し、又博覽會共進會等の開設ある

に際し、評議員、審査官等に任せられたること多し、現に帶る公私職務の重なるものは、貴族院議員、横濱水道局長、横濱市參事會員、横濱商業會議所議員、七十四銀行及横濱貯蓄銀行頭取、横濱奬兵義會長、横濱市敎育會長、茶業組合中央會議議長、横濱銀行倶樂部長等なり、功勞に依り從四位勳三等に叙せらる

中山沖右衞門

○中山沖右衞門　代代横濱に農商を營み、明治二年政府より、兩替渡世を命せられ中屋なる屋號を賜りたり、明治初年横濱水道發起人と爲り、後第七十四國立銀行を起し、神奈川縣會議員、横濱市會議員、同名譽職市參事會員となり、元町貯蓄銀行を創設したるを以て、其事業の主なるものとす

小野光景

○小野光景　父小野兵助は文政元年信濃國に生れ、安政六年横濱に來住し、本町五丁目町役と成りしを始めとし、元治元年以來明治初年に至る迄、横濱諸町の名主を勤め、其間慶應三年征長軍費として幕府へ獻金したる廉に依り銀若干を賜はり、一代苗字を名乘るべき沙汰あり、次で勤務出精の廉を以て、使部准席に列せられ、帶刀を免るさる、同四年使部准席の稱廢せられて後は、官員詰所へ罷出る儀は、身分一等進みたる儀と心得べしと達せられ、同年名主の名義一般廢せられてより、更に市長を命せらる、翌五年疾を以て職を辭し、鄕里に退隱し、明治三十三年七月歿す、其子光景は弘化二年信濃國に生る、明治の初年より敎育の普及就中横濱商業學校設立に力を致したるが如き、貿易商總理として、又は個人として埠堤の改築、船渠商品陳列所、貿易倉庫、商業會議所等の設立、八王子鐵道の計畫創設等に力を盡し、四十年來壓迫を蒙りし、外商の專横を制して、吾生絲商の商權を恢復し力るが如き、近くは横濱築港工事の斷絕せんとするを見て、政府議會の間に斡旋して、其繼續を實行せしめたるが如きは其主なるものにして、明治初年以來學區取締、戸長、第一大區會議長、神奈川縣會常置委員、横濱市會議員、同名譽職參事會員、横濱正金銀行頭取、横濱商業會議所會頭等に就職す

戸塚千太郎

○戸塚千太郎(故)　弘化四年江戸に生れ、明治四十年歿す、横濱商業銀行、横濱貿易倉庫等の重役、横濱商業會議所常務委員、横濱商業學校常務議員等は彼が死亡の時就任中にてありし

安部幸兵衞

○安部幸兵衞　弘化四年越中國に生る、父を長兵衞と稱し弘化三年江戸小舟町に店舗を開き今に至り三代を經たり、幸兵衞幼よりして、江戸堀江町榎並屋庄兵衞に

仕へ安政六年横濱開港の時主人横濱に來り商店を設く幸兵衛之れに從ふ、明治七年獨立して、市内本町四丁目に砂糖、麥粉、石油、外米の引取業を開き十七年更に南仲通三丁目に移り、爾來今日に至れり、二十二年横濱市會議員に、二十八年横濱商業會議所議員となり、次で常務委員に就任せり、又横濱舶來砂糖貿易商引取組合の成るや頭取に推され、横濱砂糖貿易商組合と改稱するに至り、續いて其任に當り、近くは增田增藏等と共に川崎附近に横濱精糖會社を起して其重役たり

後藤省三郎

○後藤省三郎(故)　七寶燒の創業地たる愛知縣海東郡某村の出生なり、明治六年舉家横濱に轉じ、七寶工場を設け十年に及び、外人の嗜好に適合する、一種の製品を製作し得るの機に達し、同年開設の内國勸業博覽會に出品して始めて賞牌を受け、爾後漸次海外に於ける需要を喚起し、其後製品を濠洲アデレート博覽會に出品して各、一等賞を得、越えて第三内國勸業博覽會、米國シカゴ世界博覽會、第五回内國勸業博覽會並に米國セントルイ萬國博覽會等に出品して、第一等賞或は進歩賞を受領する等、事業大に進み、職工を雇使すること三百名の多きに上りしことあり、明治十六七年に至り、粗製濫造の弊起り、爲に海外に於ける本邦製品の信用を失墜し、延ての後事業に一大打擊を蒙りしが、十八年に至り他工場に於て模倣し能はざる、一種獨特の技を發明し、漸く海外に於ける昔日の信用を恢復するを得、爾來盛況を告げ、其七寶燒は本港輸出重要品の一に數へらるるに至れり、明治三十六年十二月歿す、長女千代野遺業を襲き、職工數十人を役し、製造及輸出業を營みつつあり

太田治兵衛

○太田治兵衛　弘化四年江戸荏原郡北品川に生る、太田仁兵衛の長男なり、文久元年家督を相續す、横濱に移住したるは、明治二年十二月にして、質屋及貸倉を業とす横濱商業會議所議員、同市會議員等は其公職の主なるものとす

佐藤喜左衛門

○佐藤喜左衛門(故)　嘉永元年武藏國久良岐郡北方村に生る、明治十年横濱第一大區三小區戸長となり、十六年横濱區長心得となり、同年久良岐郡長に任せられ、後市町村制實施に當り、横濱市長となり、二十九年滿期退職せり、公職に在ること、前後二十年、三十二年東京移民合資會社の用務を帶びて布哇に渡航し、幾もなく同地癘疫の侵す所となりて歿す

梅田義信

○梅田義信(故)　嘉永元年江戸に生れ、明治六年鳥取縣十二等出仕となり、爾來東京府東多摩郡長、東京市芝區長、檢事、栃木縣及奈良縣書記官、文部省參事官、同書記官等

に歴任し、二十五年勳六等を授けられ、依願免本官と成り、二十九年六月横濱市長に就任し、在職中三十九年九月歿す、從五位に叙せらる

左右田金作

○左右田金作　嘉永二年上野國に生る、文久三年單身横濱に來住して、身を實業界に投じ、明治元年始めて南仲通に兩換店を設け、二十二年中創立委員と成りて利根運河株式會社を起し、二十八年南仲通に合資會社左右田銀行を、三十三年には別に株式會社左右田貯蓄銀行を設け、自ら頭取と成り、全國要地に支店を置けり、其公生涯としては、明治三十九年貴族院議員に任命せられしまで、神奈川縣會議員、横濱市會議員、横濱商業會議所常務委員等に就職し、三十九年日露戰役當時の功勞に依り勳四等を授けらる

美澤進

○美澤進　嘉永二年備中國に生れ、阪谷朗廬、箕作秋坪等の門に遊ひて、英漢の學を修め、後慶應義塾に業を卒へ、横濱商業學校長に任せられしは、明治十五年なり、爾來商業補習學校、女子商業補習學校等の校長を兼ね、今日に至るまで殆んと三十年商業教育に盡瘁したる事、本編に記する所の如し、而して横濱商業會議所特所議員に擧らるること二回に及べり

島田三郎

○島田三郎　養父豐寛は天保九年江戸に生れ、横濱に來住したるは文久二年なり爾後久しく名主又は戸長等の職にあり、解職後と雖も一市に關する大小の件は概ね參畫せさるなく、縣會議員其他名譽の職に就く事數回、三十五年七月歿す三郎は嘉永五年江戸に生る、幼にして昌平學校に入り後、沼津兵學校に移り尚横濱其他に於て英、漢の學を修め、明治六年の頃より横濱毎日新聞社に筆を執り、其名を社會に知らるるに至り、八年元老院大書記生に擧けられ、累進して十四年には文部大書記官に任せられたり、同年官を辭し神奈川縣會議員に選はれ、尋て同常置委員及議長に推され、二十二三年英、米、佛、獨諸國を漫遊す在官當時の外は毎日新聞と關係を絶ちたる事なく、第一期以來間斷なく横濱市選出衆議院議員に列し、其間全院委員長又は副議長に推されたる事あり

相馬永胤

○相馬永胤　舊彦根藩士族嘉永三年近江國に生る、年甫て五歳父に從ひ江戸に移り、幼にして讀書劍槍を好み、明治戊辰の變に際し、東征の軍に從ひ各地に轉戰す、平定後藩地に歸り、其の後東京に出て、安井息軒の門に入り、研鑽數年、明治四年米國コロンビヤ大學に入り法律を學び、卒業の後、バチエロー、オヴ、ローの學位を受け、更に

エール大學に入り、法律及ひ經濟學を專攻し、在米九星霜、十二年歸朝して元老院に入り、後司法省附屬代言人となり、次て十四年判事に任せられしも、翌年職を辭して横濱正金銀行の取締役となり、三十年同行頭取となり今尚ほ取締役にして曾て横濱商業會議所常務委員に推さる、又曾て同志と共に東京專修學校を創立し、現に其校長たり、三十三年日清事變に於ける功に依り從五位に叙せられ、三十五年北清事變の功に依り勳五等瑞寶章を、三十九年日露事件に於ける功に依り、勳三等旭日中綬章を賜はる

海老塚四郎兵衛

○海老塚四郎兵衛　先代海老塚四郎兵衛は、嘉永五年横濱に生れ、明治十二年伊勢町外四箇所の戸長を命せられ、十五年神奈川縣會議員に、三十年市會議員に擧けらる、營業は漆器賣込商にして、曾て防水布を發明して、專賣特許を得、三十五年海老塚合名會社を組織し、三十八年退隱す、現代四郎兵衛は明治十五年の出生にして、慶應義塾に學業を修め、父四郎兵衛退隱後其業を繼ぎて、防水布製造に從事せり

田中茂

○田中茂　嘉永五年江戸に生る、明治十二年横濱市に銅、鐵、鉛機械店を開き、二十八年より海外直輸出入を開始せり、横濱市會議員、横濱商業會議所議員等に擧げられ横須賀商業銀行等に重役たり

田沼太右衛門

○田沼太右衛門　嘉永六年武州北葛飾郡に生る、明治十年神奈川縣第一大區議員に選ばれしより以來、横濱市會議員、神奈川縣會議員、横濱商業會議所議員等に當選したり、其他大日本圖書、横濱共同電燈、横濱電氣鐵道等の諸會社、横濱米穀取引所、横濱貿易銀行等の重役を勸め、傍ら女子教育に盡瘁しつゝあり

高橋是清

○高橋是清　安政元年仙臺に生れ、慶應元年同藩藩費を以て横濱に英語を修め、次て同藩より北米留學を命せられ、歸朝後開成學校に入學し、大得業生と成りて後、同校少教授に任せられ、爾來諸省に奉職し、十八年農商務省專賣特許局長と成り、專賣商標保護に關する現狀實視の爲め、歐米各國に差遣せられ、歸朝後東京農林學校長に兼任せられ、二十二年日、秘露鑛業會社全權委員と成りて秘露に渡航し、二十五年六月官を辭し、從四位に叙せらる、爾後身を實業界に投じ、日本銀行支配役西部支店長と成り、次いで横濱正金銀行副頭取に選任せられ、三十三年日本銀行副總裁仰付られ、三十八年政府の内命に依り英、米兩國に渡航し、英國に於て外債募集に力を致し同年貴族院議員に任せられ、三十九年横濱正金銀行頭取となり、同年帝國日本政

府特派財政委員として英國に行き英貨公債の募集に成功し、同年勳一等瑞寶章を賜り、四十年男爵を授けらる

金子政吉

○金子政吉　安政元年下野國に生れ、明治十二年金子家に入る、其始め質屋を業とし、廿一年横濱銀貨竝株式取引所肝煎に就職したるを始とし、二十三年以來市會議員に三回(議長代理者に就任する事二回)商業會議所議員に兩回當選し、其他徴兵參事員、水道常設委員等の職に就き又横濱商業銀行、同貿易銀行、同蠶絲外四品取引所同貿易倉庫會社等の重役に擧けらる

小泉穀右衛門

○小泉穀右衛門　先代穀右衛門は天保五年横濱に生れ、萬延元年より農商の業を營み、明治六年質屋營業を開始し、十八年歿す、現代穀右衛門は他より入りて小泉家の家督を相續し、父祖傳來の業務を繼續し、神奈川縣會常置委員、横濱商業會議所議員等に擧けられ、戸部貯蓄銀行頭取等を勤む

渡邊福三郎

○渡邊福三郎　安政二年江戸に生る、祖父渡邊治右衛門磐城國白水山に鑛脈を發見し、爾來巴麻油を製造して販賣し、又軍艦用石炭御用達と爲る、安政六年横濱本町五丁目に石炭納屋を建設し、明石屋平藏の名義を以て開店せり、然れども其主腦は治右衛門にして、江戸明石屋治右衛門の支店なり、業務の主なるものは、石炭販賣にして、其他蠶絲、海産物等をも扱へり、平藏死去の後店號を明石屋新太郎と改稱し、渡邊吉兵衛の經營に移れり、慶應元年福三郎横濱の店を繼承するに及び、石炭屋福三郎と改稱す福三郎は明治二十一年、海防費の中へ金一萬圓獻納したるに依り、從六位に叙せられ、二十二年横濱市會議員に、二十三年神奈川縣會議員に當選し、二十六年市會議長に推選せられ、三十七年名譽職市參事會員に選任せられ、同年貴族院議員に就職し、三十九年勳四等を授けらる、現に重役として就職せる會社、銀行は二十七銀行、東京瓦斯會社、横濱鐵道會社外十數社なり

三橋信方

○三橋信方　明治十二年外務省雇として就職、同十八年より外務省兼神奈川縣奏任御用掛として神奈川縣外務課長を兼ぬ、十九年同縣書記官に任せられ、後參事官又書記官に任せらる、二十七年國際公法顧問として、日清戰役に從軍し、續て營口民政部長に任せらる、歸朝後外務參事官、書記官、外務大臣祕書官等に任せられ、三十三年辨理公使に昇任し、三十四年一月特命全權公使となり、和蘭國兼丁抹國駐劄仰付られ、三十九年九月歸朝して本官を辭し、横濱市長に就任す、在官中從四位勳三等に

若尾幾造

叙せらる

○若尾幾造　先代幾造は山梨縣に生れ、安政六年より輸出生絲、輸入棉花及砂糖の商業を營み、明治九年横濱本町四丁目に於て、生絲賣込業を開始す、二十九年十月病死す、現代幾造も亦同縣に生れ、始め林平と稱し、父の歿後其名を襲きて幾造と改め横濱市に於て蠶絲貿易商を營む、爾來貴族院議員、横濱市參事會員、同商業會議所常務委員等に擧げられたるを主なるものとし、横濱四品取引所理事長、東洋汽船、横濱電燈、横濱電線、日本鐵道、横濱鐵道の諸會社を始め、諸多の會社の重役と爲り、若尾銀行に頭取たり、又縣下藤澤町と、埼玉縣下本庄町の二箇町に生繭乾燥所を設け、鶴沼村字石上に生絲製絲機械場二百人繰を設け、明治村に第二製絲場五十人繰を設く該所製品は第五回内國勸業博覽會、三十六年佛國萬國博覽會、三十七年米國萬國博覽會に出品し、金牌其他を得、三十九年勳五等に叙せらる

市原盛宏

○市原盛宏　安政五年肥後國に生れ、同藩英學校、同志社英學校を經て、米國エール大學に入りドクトル、オヴフイロソフイーの學位を受け、其前後同志社又は仙臺なる東華學校に教鞭を取り、二十五六年歐洲諸國に漫遊し、歸朝後日本銀行、第一銀行に入り、三十五年澁澤男に從ひて再び歐、米に遊び、同年十二月横濱市長に推選せられ、三十九年辭す後再ひ第一銀行に入り、現に東京本行取締役にして、韓國支店支配人たり

齋藤忠太郎

○齋藤忠太郎　安政六年埼玉縣に生れ、東京に遊學する事數年の後、明治十年横濱に移住す、爾來英漢の學を修むる傍ら、東京鸚鳴社と提携して顯猶社を組織し、民權の鼓吹に努め、同十五年東京專門學校に入りて政治經濟及英學の學科を卒へ、後横濱商法會議所の事務に執掌し、二十二年日本絹綿紡績會社に入りて紛糾を解き、廿九年東京移民會社を起し、爾來布哇へ二萬二千、加奈陀へ千五百、麻尼剌へ千二百の移民を送り、横濱實業銀行創設に力を致し、日本漆器株式會社を起し、現に横濱商業會議所議員、神奈川縣參事會員たり

樋口登久次郎

○樋口登久次郎　先代登久次郎は天保七年山梨縣山梨郡某村に生れ、明治二年より横濱市に於て和洋酒類販賣業を營み、横濱に爲替會社の設立せらるるに及びて重役に列し、第二銀行に繼承せらるるの後も、依然頭取或は支配人の地位に居り、縣會議員、市參事會員、横濱商業會議所議員等の諸役に選任せらる、現代登久次郎は、安

政六年山梨に生れ、松本源六と稱し、第二銀行取締役横濱商業會議所議員等に推薦せらる

飯島勇造

○飯島勇造(故)　文久二年甲斐國に生れ、呉服太物商を營みしが、横濱開港の當時自國製生絲竝に蠶種紙を出荷し、外商に販賣し、爾來上、武、信州其他奥羽地方の生絲を買收して、商館に賣込むを常としたり、殊に明治十九年岩代國福島に於て折返生絲多量を買入れ、同伸社の手を經て、直輸出したることあり、明治初年市内中村に有志と共に石造倉庫數棟を建設し、石油火止製造所通廣社と稱し、社長に推薦せられたり、其他從事したりしは横濱市參事會員、貿易商組合總理、貿易倉庫株式會社社長、横濱蠶絲外四品取引所常務取締役等とす、其經營に係る森田屋洋服店は明治六年の創設にして、製品は第四回内國勸業博覽會第五回内國勸業博覽會に於て各、賞を得たり、三十七年三月歿す

堀谷左治郎

○堀谷左治郎　文久二年信州松代に生れ、明治八年横濱に來り東京に遊學し、數年の後實業界に入りしを手始として米穀取引仲買店を開き、後日本絹綿紡績會社長と爲り、三十年東京移民會社を起し、數千の移民を布哇に送り、三十一年實業銀行を起して、今尚ほ其重役に列し、又神奈川縣會議員、同縣參事會員、横濱商業會議所議員兼議院議員等に選ばれ三十七八年役の功に依り勳四等に叙せらる

岡野利兵衛

○岡野利兵衛　初代岡野利兵衛は横濱開港に際し、製茶及び海産乾物の輸出業を起し、二代を經て當主利兵衛に及ぶ、當主は明治十七年横濱製茶業組合創立以來副組長に、十九年茶業組合中央會議所設立以來議員に、其他日本貿易協會委員、横濱第七十四銀行、横濱貯蓄銀行等の重役に擧けられ、次で横濱商業會議所創立以來議員に選ばれ、三十二年横濱海産乾物同業組合副組長、磐城セメント會社、横濱魚油會社重役等に擧げらる

海老塚德三郎

○海老塚德三郎　父海老塚與次右衛門は武州生麥の人なり、安政六年横濱に來住し、本町に運送店を開き村田屋と稱す、當時運送業は十軒に限定せられ、彼れは其總代たり、明治九年朝田又七等と共に製氷事業を起し、十一年伏島近藏、朝田又七等と共に共益社を起し、白米醬油薪炭の販賣社を組織し、其社長と成る、又太田村に溜池を築造し、私設水道を敷設し、横濱港碇泊の内外國船艦へ飲料及汽罐用水を供給せり十六年六月歿す、現代德三郎は明治元年横濱に生る、五年分家して、父の遺業を繼

ざ神奈川縣會議員、同縣參事會員等に選まる

大濱忠三郎

○大濱忠三郎　先代大濱忠三郎は、天保十二年信州に生る、慶應年間横濱に移住し貿易に從事す、明治十一年第一大區複選議員を始とし、横濱市會議員、神奈川縣會議長、名譽職市參事會員、横濱商業會議所議員等に當選し、二十一年勅定の黄綬褒章を下賜せられ三十九年九月歿す、現代忠三郎は明治四年横濱に生れ、先代の歿するや家督を相續し、南仲通に洋紙織物引取商及東京日本橋區田所町に洋紙織物卸商を營めり、公職としては横濱區會、神奈川縣會に議員となり、横濱市參事會員、同商業會議所常務委員に推され、又横濱蠶絲外四品取引所、横濱倉庫、横濱電氣鐵道、關東煉瓦横濱生命保險、大日本共同運輸等の諸社に重役たり

渡邊文七

○渡邊文七　明治四年山梨縣南都留郡某村に生れ、小林金太郎と稱せしが、先代文七に養はれ二十九年家督相續と同時に襲名す、營業は蠶絲屑物貿易商、横濱蠶絲外四品取引仲買にして、横濱市會議員、横濱市參事會員、横濱商業會議所常務委員帝國肥料、關東煉瓦、横濱生命、横濱電氣鐵道諸會社等に重役たり

石井健吾

○石井健吾　養父石井政兵衛は、兩替商を業とし、明治二十五年五月歿す、健吾は明治七年東京に生れ、二十八年東京高等商業學校を卒業し、直に第一銀行に入り、三十年石井家に入りて家督を相續し、三十二年第一銀行横濱支店支配人と爲り、三十九年中銀行事務視察の爲、歐米諸國を漫遊せり

附錄

終

横濱市功勞者

原善三郎

高橋是清

茂木保平

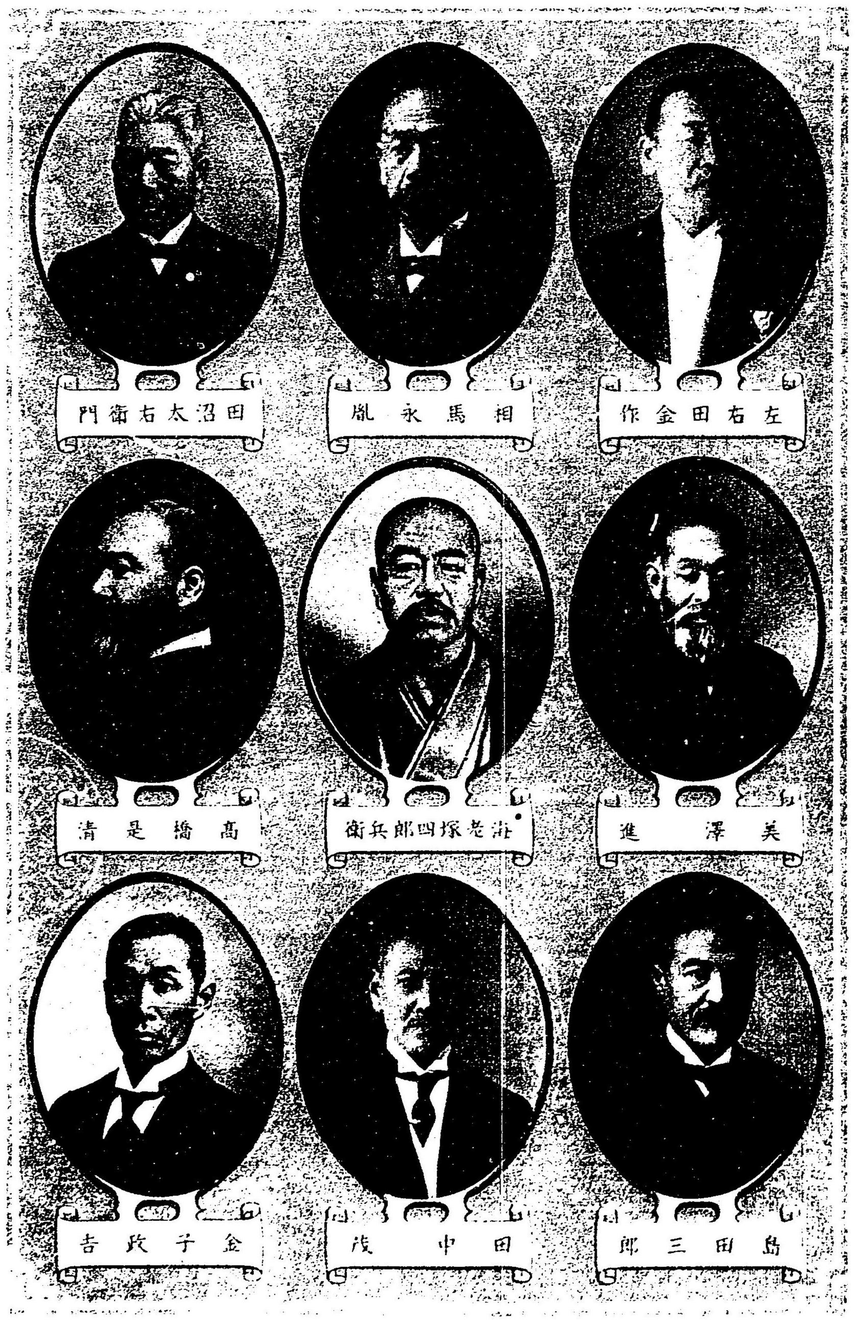
毛利德右衛門

石川半右衛門

金指六左衛門

西村勝三
増田嘉兵衛
高島嘉右衛門
平沼專藏
川田小一郎
田中平八
伏島近藏
高木久成
木村利右衛門

莫輪三郎
加藤八郎右衛門
大谷幸兵衛
莫田長二郎
宮川香山
朝田又七
高木三郎
安西德兵衛
平沼九兵衛


田沼太右衛門
相馬永胤
左右田金作
高橋是清
海老塚四郎兵衛
美澤進
金子政吉
田中茂
島田三郎

樋口登久次郎
若尾幾造
小泉殺右衛門
飯島勇造
市原盛宏
渡邊福三郎
堀谷左治郎
齋藤忠太郎
三橋信方

歴代神奈川縣長官

渡邊文七

岡野利兵衛

海老塚德三郎

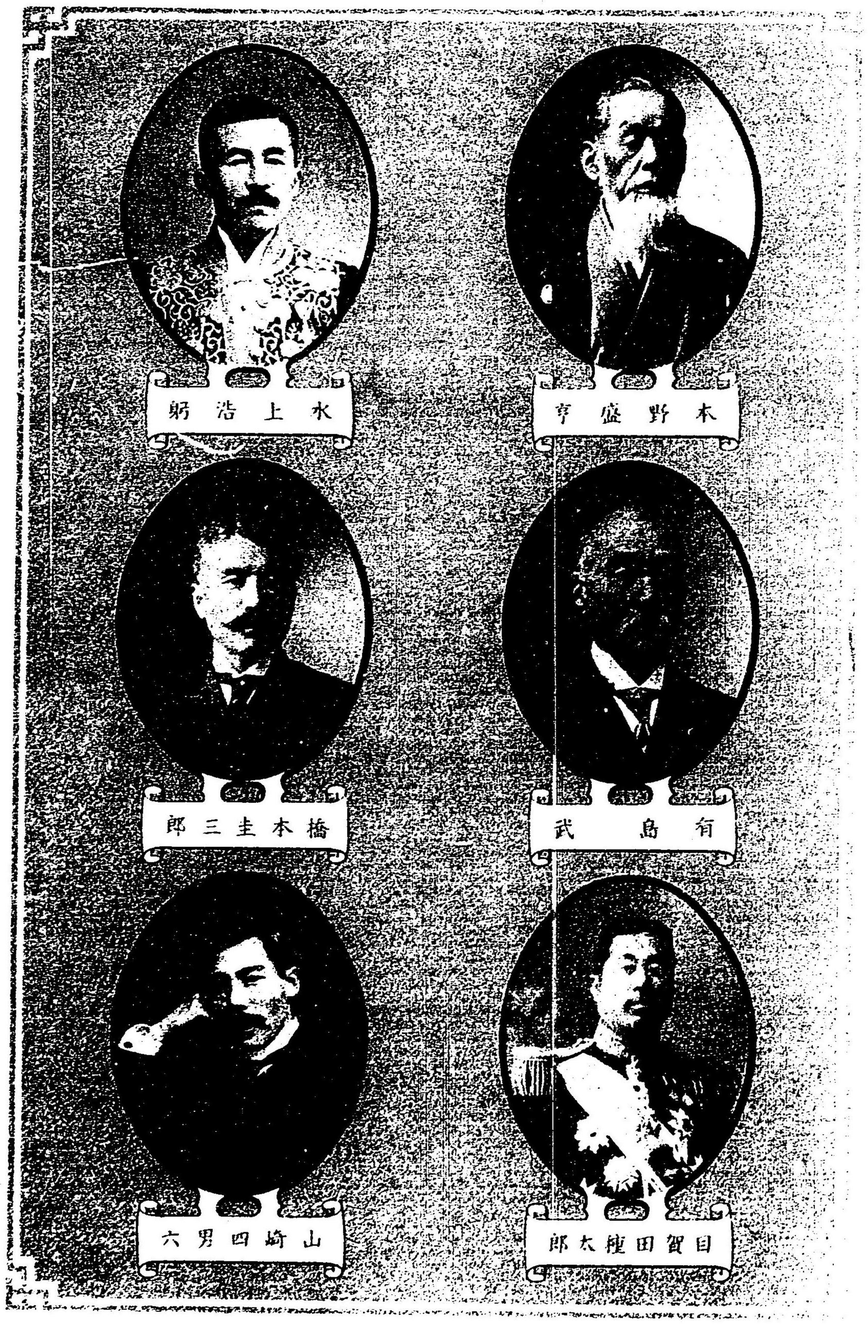
大濱忠三郎

石井健吾

太田治兵衛
小野光景
堤磯右衛門
佐藤喜左衛門
戸塚千太郎
大谷嘉兵衛
梅田義信
安部幸兵衛
中山沖右衛門

東久世通禧
陸奥宗光
野村靖
鍋島直大
大江卓
沖守固
奇島宗則
中島信行
淺田德則

歷代橫濱稅關長
中山讓治
內海忠勝
亨星
中野錦明
柳谷謙太郎
周布公平


水上浩躬
木野盛亨
橋本圭三郎
有島武
山崎四男六
目賀田種太郎

明治四十二年五月十日印刷
明治四十二年五月十五日發行

定價上下二冊金拾圓

著作權所有

著作者　肥塚龍
東京市赤阪區一木町六十三番地

發行者　川本三郎
横濱市本町六丁目七十六番地

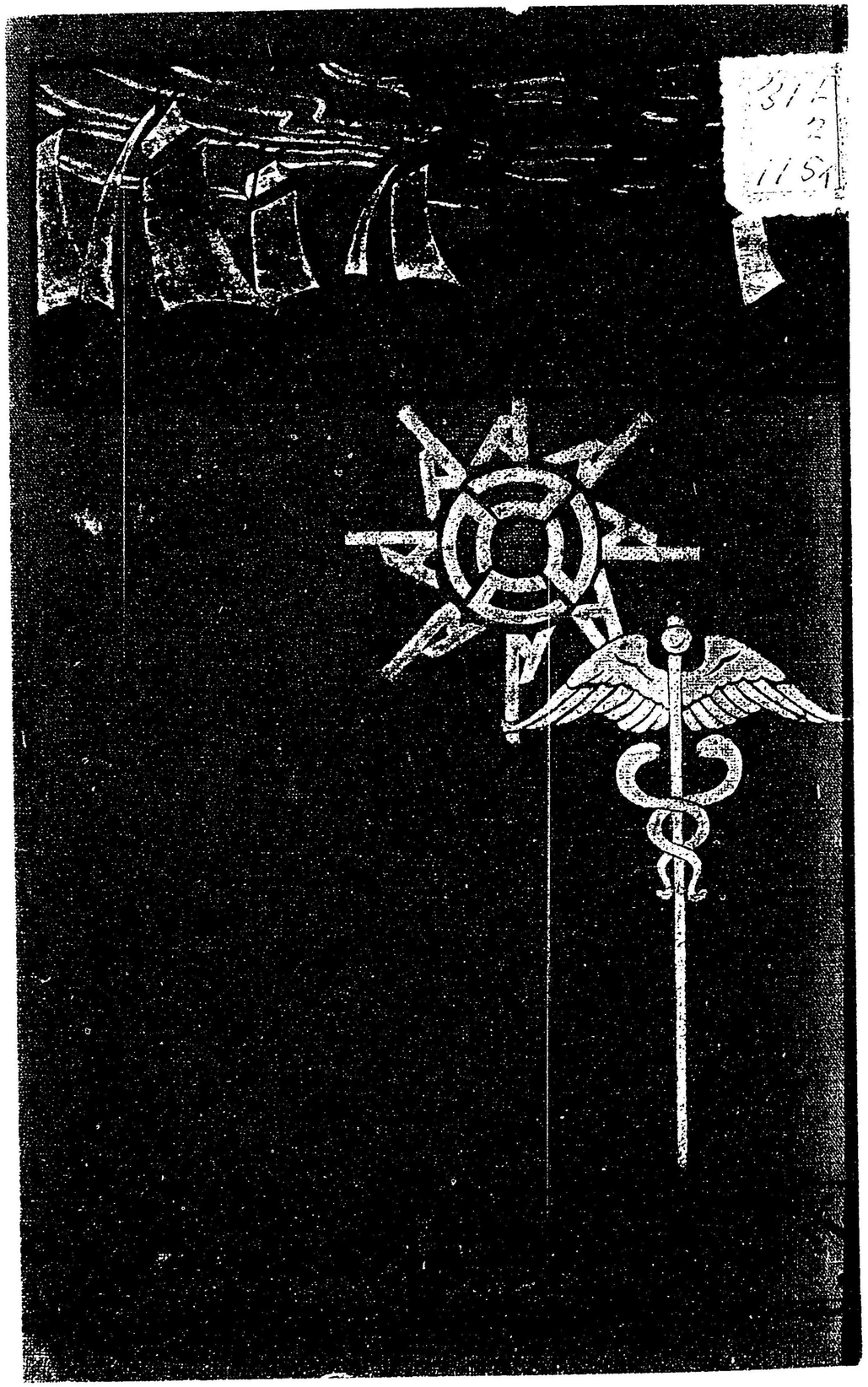
發行所　横濱商業會議所
横濱市本町六丁目八十四番地

印刷者　田山宗堯
東京市日本橋區數寄屋町一番地

下卷正誤表

頁	行	誤	正
九八			
九九			
附錄			
二〇四			
同	六	挿畫	
同	洋紙	萬延元年	文久二年
同	洋絲		

316
M



374
2
1151